

科目名	“越境”するヒト・モノ・メディア		
科目番号	A-2	開設大学名	長崎県立大学シーボルト校
開講場所	長崎県立大学シーボルト校 講義室	教養・専門の別	教 養
		単 位 数	2単位
開講期間	平成30年4月11日(水)～ ～平成30年7月25日(水)	曜 日	水曜日
		時 限	6時限目
開講時間	18時00分～19時30分(90分) 「毎週水曜日」	授業定員	60人(うち単位互換定員60人)
		履修年次	1年次以上
実習費等	なし	選考方法	書類選考
その他特記事項	受講者が5名以下の場合 不開講とする場合がある	試験・ 評価方法	出席・レポート等により総合評価

開講日	講 義 名	担 当 教 員
① 4月11日	“越境”するヒト・モノ・メディア	森田 均 (国際社会学科 教授)
② 4月18日	亡命者、媒介者、実践者——メディア社会学の形成と受容	門部 昌志 (国際社会学科 准教授)
③ 4月25日	情報・メディア、越境と融合の軌跡と行方	金村 公一 (国際社会学科 准教授)
④ 5月 9日	紙芝居というメディア	柳田 多聞 (国際社会学科 准教授)
⑤ 5月16日	日韓中 若者文化の“越境”	吉光 正絵 (国際社会学科 准教授)
⑥ 5月23日	“越境”する韓国の人々	李 炯喆 (国際社会学科 教授)
⑦ 5月30日	明治知識人の英語	上村 俊彦 (国際社会学科 教授)
⑧ 6月 6日	長崎と文学	下野 孝文 (国際社会学科 教授)
⑨ 6月13日	“越境”する価値観、“越境”しないしがらみ	鈴木 暁彦 (国際社会学科 教授)
⑩ 6月20日	“越境”できないテレビ 日韓中テレビ制作者フォーラム15年の軌跡	村上 雅通 (国際社会学科 教授)
⑪ 6月27日	越境するマナー・消えるマナー ゲートウェイ都市の政治経済論	小原 篤次 (国際社会学科 准教授)
⑫ 7月 4日	“越境”するヒト・モノ・メディア	森田 均 (国際社会学科 教授)
⑬ 7月11日	農民戸籍から都市戸籍への“越境”・・・中国社会的変貌	祁 建民 (国際社会学科 教授)
⑭ 7月18日	E Uに“越境”する難民の現状と課題	荻野 晃 (国際社会学科 教授)
⑮ 7月25日	“越境”を拒んだ英国の現状と展望	笠原 俊彦 (国際社会学科 教授)

連絡先 長崎県立大学シーボルト校学生支援課 TEL 095-813-5065

(科目内容) EUへの難民流入、自由貿易協定締結、地上波テレビのインターネット放送など、人、物、メディアの“越境”が続いている。一方では各地に台頭する国家主義による“越境”の減速も指摘されている。この講義では、こうした“越境”の実態と今後の在りようを、長崎からの視点で捉える。

教員のコメント

“越境”を共通テーマとしてオムニバスで講義を行います。ぜひ受講してください。

科目名		在宅緩和ケア概論	
科目番号	A-12	開設大学名	長崎県立大学シーボルト校
開講場所	長崎県立大学シーボルト校 E110	教養・専門の別	教 養
		単 位 数	2単位
開講期間	平成30年10月10日(水)～ ～平成31年1月30日(水)	曜 日	水曜日
		時 限	6時限目
開講時間	18時00分～19時30分(90分) 「毎週水曜日」	授業定員	60人(うち単位互換定員 60人)
		履修年次	1年次以上
実習費等	なし	選考方法	書類選考
その他特記事項	なし	試験・評価方法	出席・レポート等により総合評価

開講日	講 義 名	担 当 教 員
① 10月10日	オリエンテーション・在宅緩和ケアの現状と課題	吉原 律子 (元長崎県立大学看護栄養学部)
② 10月17日	在宅療養(ケア)と介護福祉士の役割	堀部 和貴 (ケアプランセンターやまぼうし)
③ 10月24日	ホスピス・緩和ケア	益富美津代 (聖フランシスコ病院)
④ 10月31日	在宅緩和ケアとがん診療	山之内孝彰 (長崎大学大学院医歯薬学総合研究科)
⑤ 11月 7日	在宅療養における医師の役割	阿保 貴章 (医療法人阿保外科医院)
⑥ 11月14日	在宅療養における管理栄養士の役割	古川 美和 (長崎市医師会医療センター診療所)
⑦ 11月21日	在宅療養と行政の役割	藤田 利枝 (長崎県県央保健所)
⑧ 11月28日	在宅緩和ケアとリハビリテーション	松坂 誠應 (長崎リハビリテーション病院)
⑨ 12月 5日	在宅医療における情報通信技術の活用	前村 葉子 (長崎県立大学情報システム学部)
⑩ 12月12日	在宅医療における地域医療連携の実践	川崎 浩二 (長崎大学病院地域医療連携センター)
⑪ 12月19日	在宅療養における薬剤師の役割	手嶋 無限 (アイビー薬局)
⑫ 1月 9日	在宅ケアのマネジメント	志岐美津子 (恵珠苑居宅介護支援事業所)
⑬ 1月16日	在宅療養における歯科医師の役割	介田 圭 (長崎大学大学院医歯薬学総合研究科)
⑭ 1月23日	在宅療養における看護師の役割	金子 和美 (訪問看護ステーションYOU)
⑮ 1月30日	在宅ケアにおける死生観	内村 公義 (NPO法人ウレシヤン・コミュニカレッジ)

連絡先 長崎県立大学シーボルト校 学生支援課教務グループ TEL: 095-813-5065

(科目内容) 多様な講師によって構成される科目です。

がん医療や緩和ケアに関する基礎知識、療養者及び家族が療養生活を送るにあたって必要となるケアについて、多様な専門の講師が話されます。一連の講義を受講すると、ケアの深み、各専門職の役割、多職種連携の実践や情報共有の方法が理解できます。講師陣は医療機関や在宅医療・在宅ケアの現場で活躍する医師、歯科医師、薬剤師、看護師、管理栄養士などです。

学生の感想・教員のコメント等

<教員のコメント>

がんの罹患率が増加する中、緩和ケアの必要性が求められています。これを機会に自分のこととして、医療従事者として緩和ケアと在宅ケアについて学んでみませんか。学生のみならず多くの方のご参加をお待ちしています。

<受講生の感想> (一部抜粋)

早期からの緩和ケア導入は、QOLの向上だけでなく生存率の改善にもつながると学び驚きました。緩和ケアの導入のためには様々な職種が連携して、それぞれの視点からサポートする必要があることも学ぶことができた。(看護学生)

色々な職種が集まって専門性を発揮するだけでなく、目標をしっかりとみんなで作らせて、患者家族の価値観にあった対応を行うことが大切なんだと学びました。(看護学生)

